

主題「平和で民主的な考えから、実現したい未来を切り拓く生徒」の育成

1 主題設定の理由

社会科は「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成することを最上位の目標としている。平和で民主的とは、争いがなく穏やかな状況を望み、一人一人のもつ権利が尊重されていることであり、このような「平和で民主的な考え」を基に生徒自らが課題を設定し、社会科の学習に責任をもって取り組むことで、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎の育成につながると考える。社会科の学習で身に付けた資質・能力と、探究的な学びの中で深化した「平和で民主的な考え」を基に、生徒は実現したい未来を切り拓いていくことができるだろう。

昨年度の課題として、自己との関連性が見だしにくい限定的な地域や短い時代を扱う単元での課題設定の場面において、生徒が「平和で民主的な考え」を基に単元の課題を設定することが難しかった。「平和で民主的な考え」と関連付けた課題を設定することで、生徒はエージェンシーを発揮し、自ら AAR サイクルを回しながら学習に取り組むことができ、「平和で民主的な考え」を深めることができると考える。また、探究的な学びの過程の中で、生徒自身が「平和で民主的な考え」について常に問い続けながら学習に取り組めるような教師の手立てが必要であると考え。

以上のことから、今年度も継続して研究主題を「平和で民主的な考えから、実現したい未来を切り拓く生徒」の育成とし、探究的な学びを実現するための具体的な手立てを通して実践研究を進める。

2 生徒がエージェンシーを発揮し、探究的な学びをデザインするための具体的な手立て

(1) 実現したい未来と学習内容を関連付ける単元構成と「習得型」、「探究型」を用いた授業デザイン

今年度も生徒が思い描く実現したい未来と現代社会とのギャップから、「平和で民主的な考え」を基にした「分野課題」を設定する。「分野課題」とは、地理的分野では「グローバル化が進む世界に生きる日本の在り方、私の生き方とは?」、歴史的分野では「これからの為政者の在り方とは?」のように、それぞれの分野の学習のはじめに、生徒の意見を基に設定するものである。昨年度の成果として、生徒は「分野課題」を基に単元の課題を設定し、自身の実現したい未来と関連付けながら学習し、「平和で民主的な考え」を深められた。

今年度は、各分野の中項目、大項目を1つの大単元として、単元の課題を設定する(図1)。また、社会科の資質・能力を身に付けるために、学習形態を自己決定し、共通の課題を解決する「習得型」と、身に付けた資質・能力を発揮し、「平和で民主的な考え」を深める「探究型」を大単元内に設定する(図2)。単元を大きく捉え、学習内容と実現したい未来との関連性を見だしやすくすることで、生徒はエージェンシーを発揮しながら、社会科の見方・考え方を働かせた深い学びが実践できると考える。単元の前半に「習得型」、単元の終わりに「探究型」を配置することで、生徒は十分な知識を基に探究的な学びに取り組むことができると考える。

地理的分野	歴史的分野	公民的分野
大項目A 世界と日本の地域構成	大項目A 歴史との対話	大項目A 私たちと現代社会
大項目B 中項目(1) 世界各地の人々の生活と環境	大項目B 中項目(1) 古代までの日本	大項目B 私たちと経済
大項目B 中項目(2) 世界の諸地域	大項目B 中項目(2) 中世の日本	大項目C 私たちと政治
大項目C 中項目(1)(2) 地域調査の手法 日本の地域的特色と地域区分	大項目B 中項目(3) 近世の日本	大項目D 私たちと国際社会の 講義
大項目C 中項目(3) 日本の諸地域	大項目C 中項目(1) 近代の日本と世界 ※前後半に分けて実施	
大項目C 中項目(4) 地域の在り方	大項目C 中項目(2) 現代の日本と世界	

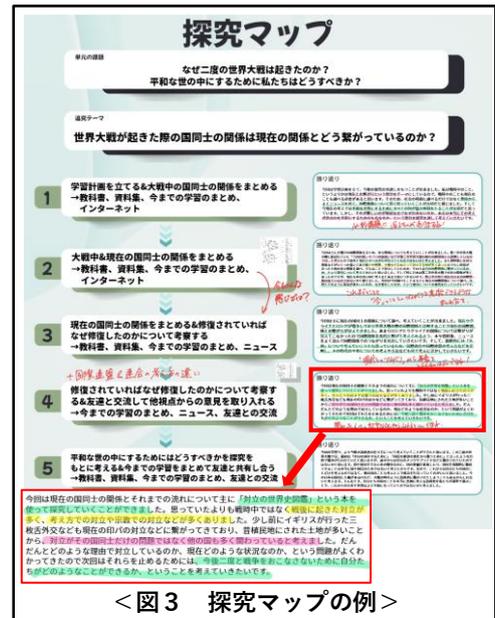
<図1 社会科部における単元構成>



<図2 「習得型」と「探究型」の図>

(2) 「探究マップ」を活用した生徒による学習デザイン

昨年度は単元の課題解決のために、個人で追究テーマを設定し、探究的な学びを実践してきた。今年度は生徒がエージェンシーを発揮するために、「探究型」では、「探究マップ」(図3)を用いて、「探究型」内の学習内容や方法、順序などを生徒自身がデザインし、探究的な学びを実践する。学んだことや今後の見通しについての生徒自身が振り返ることで、常にAARサイクルを回し、自己調整力を高めながら探究的な学びを実践できると考える。また、生徒の振り返りに対し、教師が学びの過程を見取り、称賛やゆさぶり、修正やアドバイスなどのフィードバックをしたり、個に応じて必要な資料や他者とつながる学習環境を整備したりする。生徒は、「探究マップ」を通して、自身の探究を批判的に振り返り、必要な情報は何か、どのように学べばよいかを考え、学習過程や学習内容を調整する。生徒は、自身の追究テーマを解決することが単元の課題解決、実現したい未来へとつながると考え、エージェンシーを発揮し、AARサイクルを回し続けられると考える。



<図3 探究マップの例>

3 授業実践例

(1) 単元 「近代の日本と世界」後半

(2) 実施時期／学年／配当時間 令和7年4月～6月／第3学年／全20時間

(3) 単元の目標

2つの世界大戦が起きた背景と、日本がどのように関わったのかを理解し、近代の日本と世界を大観し、2つの世界大戦が日本や世界に与えた影響について考察し、表現することができる。また、日本が戦争に関わった理由を、日本や世界の状況や時代背景、日本の考え方の推移などに着目し、根拠をもって他者に伝えることができる。

(4) 実践の概要

第1時では、2つの世界大戦に関わる資料を提示し、「なぜ2度も大きな戦争が起こったのか」「日本はなぜ戦争の道を選んだのだろうか」といった生徒の疑問と分野課題「これからの為政者の在り方とは」を基に、単元の課題を「なぜ二度の世界大戦は起きたのか。平和な世の中にするために私たちはどうすべきか。」と設定し、学習の見通しを生徒と共有した。第2時から第14時までは「習得型」を取り入れ、授業の導入で示した資料から生徒が課題を立て、個人で追究したり、他者と協働したりしながら、近代における国際情勢の特色や、世界大戦が勃発した経緯や経過などについて理解を深めた。

第15時から第20時までを「探究型」とし、第15時には生徒が自身の追究テーマを立てた。また、追究テーマを解決するために、学習計画を立て、必要な情報や根拠となりうる情報源、学びの順序などを「探究マップ」に整理し、学習の見通しをもった。探究を進める中で、生徒は得られた知識を整理し、学びを振り返りながら学習内容を自己調整した。追究テーマを「それぞれの国はどのような考えを持っていたのか？」とした生徒は、第17時の振り返りで「国民が戦争をどう思っていたかを考えて、別の視点から戦争の姿を捉えたい。」と書き、教師から「実際に戦争を体験した人や、史料館などから情報を得ることもできるのではないか。」とフィードバックを行った。その生徒は、NHKアーカイブスや国立国会図書館デジタルコレクションを用いて、戦争経験者の証言や当時の書籍やニュースから情報を収集した。第20時には、生徒それぞれの視点から考えた単元の課題に対する答えを交流し、自身の考えを深めた。単元のまとめでは「第一次世界大戦の教訓から国際協調の道が進められたが、多くの国が自国優先の政策をとったため対立が起きた。自国優先でなく国際協調をとるべきだったと考えたが、当時の状況や国民の思いに触れると、自国優先の政策をとらざるをえない国もあったのだと思う。」と、第二次世界大戦に向かう各国の状況を多面的・多角的に考えることができていた。単元の振り返りでは、「この

二度の世界大戦では、最初は「自国を守るため」「国民を救うため」という目的で戦争が行われていたと思うが、途中からは自分のメンツやプライドなどに動かされていたのではないと思う。国や国民を守るためなのに、軍備を拡張したり、国民を強制的に動員させたりすることは本当に国や国民のためなのだろうか。これからは自国のことだけを考えるのではなく、他国のことも考えた上で政治をするのがいいと思った。今の日本は国民に主権があるけれど、大戦の時のように為政者に動かされてしまうこともあるかもしれない。自分たちの国のことを本当に真剣に考える為政者を私たちが選挙で選ぶことで、これからの日本や世界はより平和になっていくのではないか。」とあり、探究的な学びを通して「平和で民主的な考え」を深めることができた。

4 研究の成果と課題

成果として、生徒へのアンケート調査で「社会科の学習を通して「平和で民主的な考え」を深めることができた」と回答した生徒が2月では90.6%、6月では96.6%であった(図4)。

また、生徒の振り返りの中では「これからの日本や世界の平和を国民と一緒に築いていけるように、様々な声に耳を傾け、方針とは違う意見を弾圧せず、受け入れた上で、誰もが納得できる結論を導いていく必要があると思う。」といった、社会の授業で学んだことと現代的な諸課題との関連性に着目した記述が多く見られるようになった。

以上のことから、生徒がエージェンシーを発揮して設定した追究テーマを基に、AARサイクルを回しながら探究マップを用いて学習をデザインすることで、「平和で民主的な考え」を深めることができたと思う。これは、大単元を設定したことで、学習内容を実現したい未来と関連付けやすくなったためと考える。また、「習得型」によって十分な知識が得られたことと、これまでの学習の蓄積により、「平和で民主的な考え」がより多面的・多角的に考えられるようになったのだと考える。さらに生徒が学習内容と実現したい未来とのつながりを意識し、学習過程をデザインできたためと考える。

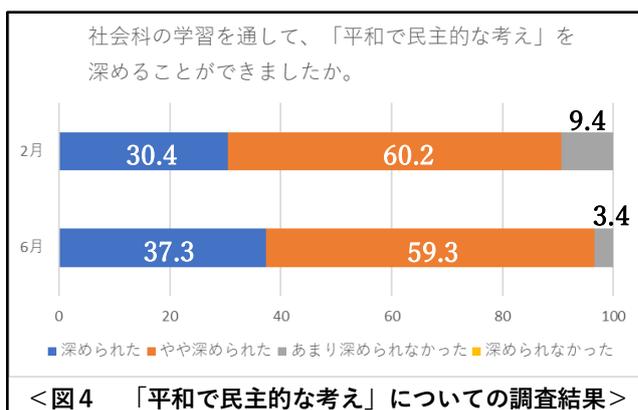
課題として、「探究マップ」における振り返りから、学習をどのようにデザインすればよいか、つまづきを感じている生徒が第1学年において多く見られた。これは、「習得型」の実践が少なく、社会的事象を社会科の見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察するという、社会科の学び方を「探究型」に転移することができなかつたためと考える。そのため、「習得型」の中で、生徒が社会科の学習過程を意識し、常に「平和で民主的な考え」について問い続けながら学習に取り組むことが必要だと考えた。

5 今後の展望

今後は、「習得型」で得られた知識や学び方を生かして、「探究型」における追究テーマの設定や学習のデザインを行えるようにしたい。「探究型」において、十分な知識を基に単元の課題に迫る追究テーマを設定できれば、生徒はエージェンシーを発揮して学習に取り組むことができるだろう。社会科の見方・考え方をいながら、AARサイクルを回し、学びの自己調整を行う中で、生徒は常に「平和で民主的な考え」を意識し、深化させることができ、研究主題の達成へとつながるであろう。

<参考文献>

- 群馬県教育委員会 (2019) 『はばたく群馬の指導プランⅡ』
- 文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領解説 社会編』, 東洋館出版社.
- 澤井 陽介・加藤 寿朗 (2017) 『見方・考え方【社会科編】』, 東洋館出版社.
- 白井 俊 (2020) 『OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来』, ミネルヴァ書房.
- 竹内 淑子 (2022) 『新装版 教科の一人学び「自由進度学習」の考え方・進め方』



<図4 「平和で民主的な考え」についての調査結果>